

[演習林]

平成29年度 附帯施設演習林の活動報告

木佐貫博光

紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター附帯施設演習林長

平成29年度に演習林で行われた活動の概況を報告する。

【研究】

三重県林業研究所との共同研究で「スギ、ヒノキ人工林斜面の流亡土砂抑制手法の開発」が継続して行われた。この研究の他に、ぬたの谷の量水試験地における水文観測，山地溪谷林における森林動態に関する研究，散布後種子食昆虫によるブナ科堅果の利用に影響を及ぼす要因に関する研究，森林生態系の物質循環を指標とした安定的な木質バイオマスの供給，スギ人工林の長期固定試験地の調査，UAV（ドローン）等による森林資源量の評価，ナラ枯れ調査などがあった。

【教育】

平成29年度演習林実習等実施計画表に基づいて、16回の実習が行われた。1年生対象のフィールドサイエンスセンター体験演習では、森林の樹木や源流に広がる森林の実態ならびに森林の育成および管理について指導した。2～4年生対象のものは、森林に関連する教育を受ける学生に対して行う、宿泊を伴う実習である。内容は、樹木学、測量学、森林土木学、林分調査法、砂防学、森林利用学など、森林管理の現場で必要になる内容をほとんど網羅している。このように、森林科学、森林管理に密着した実習を実施することで、実践的な人材の育成に努めた。

【地域連携・社会貢献活動】

- 三重大学平倉演習林ボランティア（第11回ふるさと清掃運動会－環境アクション2017との連携）：演習林整備と森林社会貢献活動のスキル習得を目的に、参加者に安全に風害木（幹折れ木および風倒木）の伐倒処理などを行わせた。また、チェーンソーと本年度に導入した簡易製材機により丸太原木を製材加工し、ベンチの作成を行わせた。参加者数は、広島経済大学、新見大学、早稲田大学の学生等11名、三重大学の学生等13名、社会人3名であった。
- 演習林は津市のセラピーロード平倉コースの終点であり、ノルディックウォーキングの休憩場所として、8名の利用があった。
- 地元の（有）美杉木材市場において10月に開催された「木材まつり」に丸太材および杭材を出品し、地元地域の木材産業の活性化に努めた。

【管理・運営】

- 間伐や歩道手入れ作業時に、支障木として切捨てていたアセビ、シキミ、サカキ等の枝物や、谷や林内にある流木を加工し、道の駅などで出荷販売した。
- 学生宿舎・管理棟にある標本室を整理し、演習林の風景や動植物の写真などを常設展示した。
- 原木丸太から板材等に製材加工をすることを目的に、簡易製材機を導入した。実習や試験研究での活用が期待される。

- カシノナガキクイムシの侵入によるミズナラ等のナラ枯れ調査を実施した（写真1）。さらに、ナラ枯れ被害拡大防止のために、伊藤進一郎名誉教授の指導のもと、捕獲トラップの設置を行った（写真2）。
- 学生実習でニホンジカなどによる食害の排除の効果を観察させることを目的に、学生宿

舎・管理棟の近くのスギ人工林に大型哺乳類の防除柵を設置し、柵内に試験地（10m×10m）を設定した。

- 森林の林況調査等に活用することを目的として、ドローン研修会（Phantom 4）に教員および技術職員が参加した。



写真1. ナラ枯れで枯死したコナラ



写真2. カシノナガキクイムシ捕獲トラップ